

## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 4 日作成)

小委員会名	伝熱小委員会		主 査 名：永田 明寛 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：岩田 利枝 主 査 名：尾崎 明仁
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	建築の伝熱問題に関わる研究開発・性能検証・評価を幅広く取り上げる。 窓・壁など伝熱の基本問題，これらを総合したファサードエンジニアリングの問題，建築と都市とのインターフェースの問題，建築と設備とを一体に捉えたエネルギー・資源の有効活用などに関する問題を取り上げる。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し		
	主査：永田明寛 (首都大学東京) 幹事：中山哲士 (岡山理科大学)・菊田弘輝 (北海道大学) 委員：奥山博康 (神奈川大学)・富樫英介 (工学院大学)・細渕真人 (愛知工業大学)・高瀬幸造 (東京理科大学)・木下泰斗 (日本板硝子 (株))・萩原伸治 ((一財) 建材試験センター)・石野久彌 (首都大学東京)・宿谷昌則 (東京都市大学)・郡公子 (宇都宮大学)・田中英紀 (名古屋大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	1) 伝熱工学モデル WG 伝熱モデルとその応用技術の標準化と普及に向けた基盤形成を目指す。 2) 建築・都市熱環境に関する将来構想 WG 建築・都市熱環境の将来あるべき姿、さらにその設計法について協議する。 3) 建材・部位熱性能 WG 部位や建材レベルでの熱性能・エネルギー性能評価方法構築に向け討議する。		
2018 年度予算	160,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s13/index.html">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s13/index.html</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	無し
講習会	無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	無し
大会研究集会	無し
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	当初計画通り，各分野の研究課題を収集し，研究を推進できた。
委員会活動の問題点 ・課題	HP の更新が滞っている。

## 2018 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A      B      C      D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>3WG および熱環境シミュレーション小委員会との合同委員会を 3 回開催（4 回目を 3/19 に開催予定）し、以下の建築・都市に関する技術や評価法の検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不確実性を考慮した省エネ投資の経済性評価</li> <li>・積雪寒冷地における高性能住宅を対象とした暖房方式の比較と検証</li> <li>・フェノールフォーム断熱材の長期断熱性能推定に関する実験的検討</li> <li>・最近の気象データによる全国冷暖房負荷の変動</li> <li>・戸建住宅の断熱改修のための環境計画手法に関する事例的検討</li> <li>・最新の温熱環境基準の動向</li> <li>・パッシブタウンの建築物省エネ法による評価結果について</li> <li>・最近の気象データによるオフィスビル冷暖房負荷シミュレーション</li> <li>・軒裏換気方式における冬期の小屋裏温湿度の解析</li> <li>・オフィス空間を対象とした昼光導入・日射熱制御を両立するガラス・フィルム複合体に関する研究</li> <li>・樹脂製窓と躯体の間の線熱貫流率軽減手法に関する研究</li> <li>・北海道大学建築環境学研究室でのオープンデータ活用の取り組み</li> </ul> <p>2019 年度：「開口部の技術動向とその熱性能の評価」というテーマで OS を企画した。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。